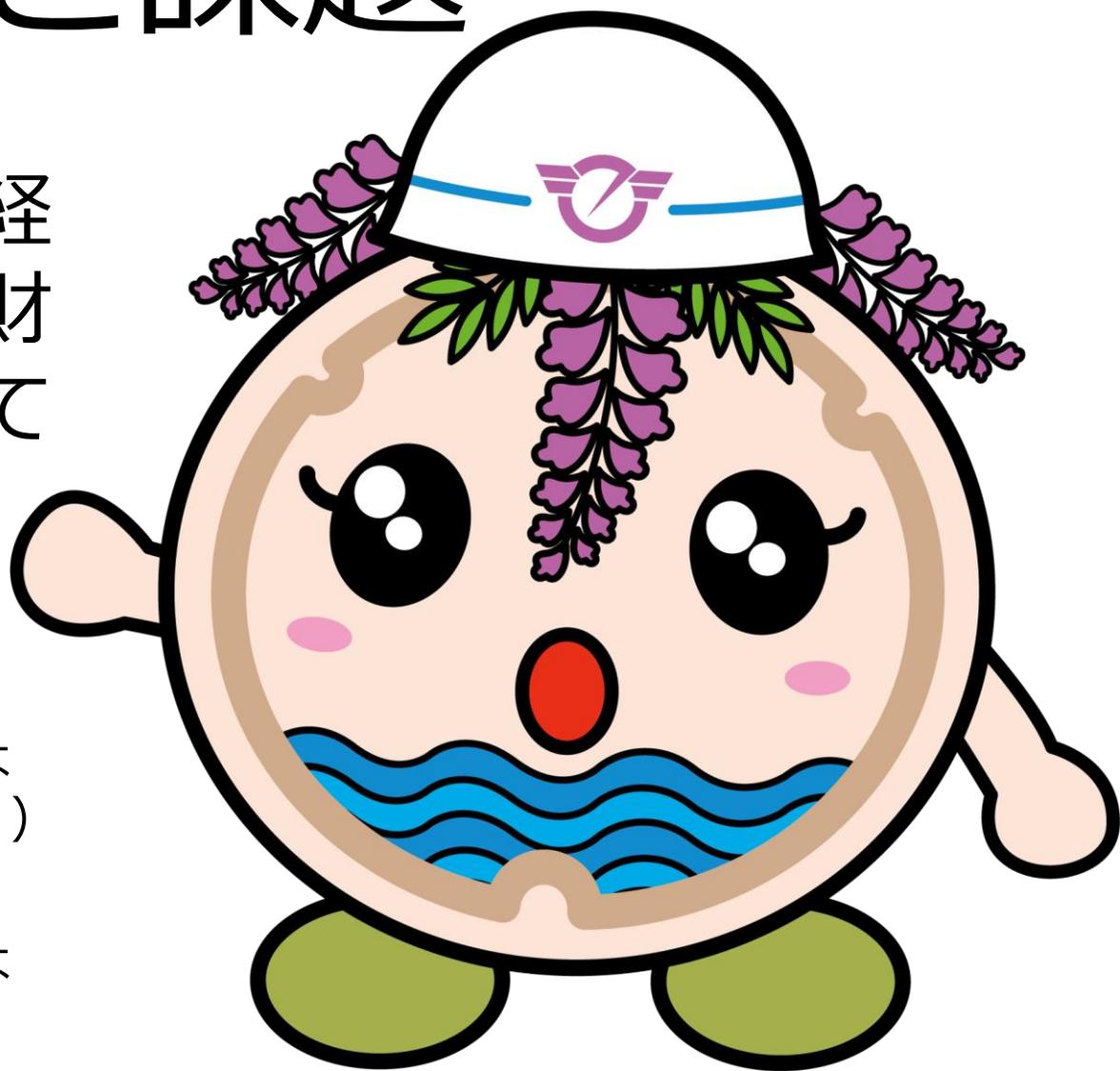


2 藤沢市の下水道 財政の現状と課題

「ふじさわ下水道中期経営計画」から、下水道財政の現状と課題についてご説明します。



* ふじさわ下水道中期経営計画の計画期間は2023（令和5）年度から2032（令和14）年度としています。

* 本項目で表記されている数値及びグラフは2021（令和3）年度末現在のものです。

(1) 藤沢市の下水道の概要

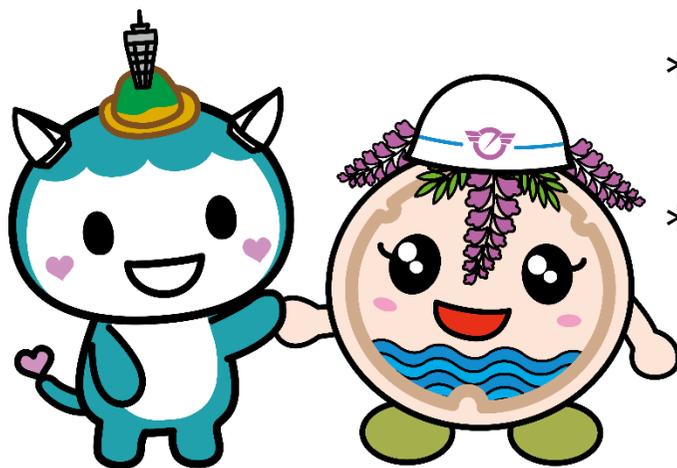
本市では、1951（昭和26）年に下水道事業に着手して以来、約1,620kmの管きよ、2か所の浄化センター、15か所のポンプ場、5か所の貯留管*を整備してきました。

その結果、下水道普及率は96%（普及人口42万5千人）に達し、ほぼ全市民が下水道を使用できる状況となっており、普及率の向上とともに、川や海などの水質も改善されています。

また、貯留管の整備により、浸水や雨天時越流水*に対する安全度が向上しています。

約75年前からずっと整備しているんだね

「キュンとするまち。藤沢」
公式マスコットキャラクター
ふじキュン♡



* 貯留管：大雨が降った際に一時的に雨水を貯め込む大きな管

* 雨天時越流水：雨水と汚水を混ぜて処理する施設において、雨天時に処理能力を超えた雨水と汚水の合流水が流入した結果、放流される未処理の合流水のこと

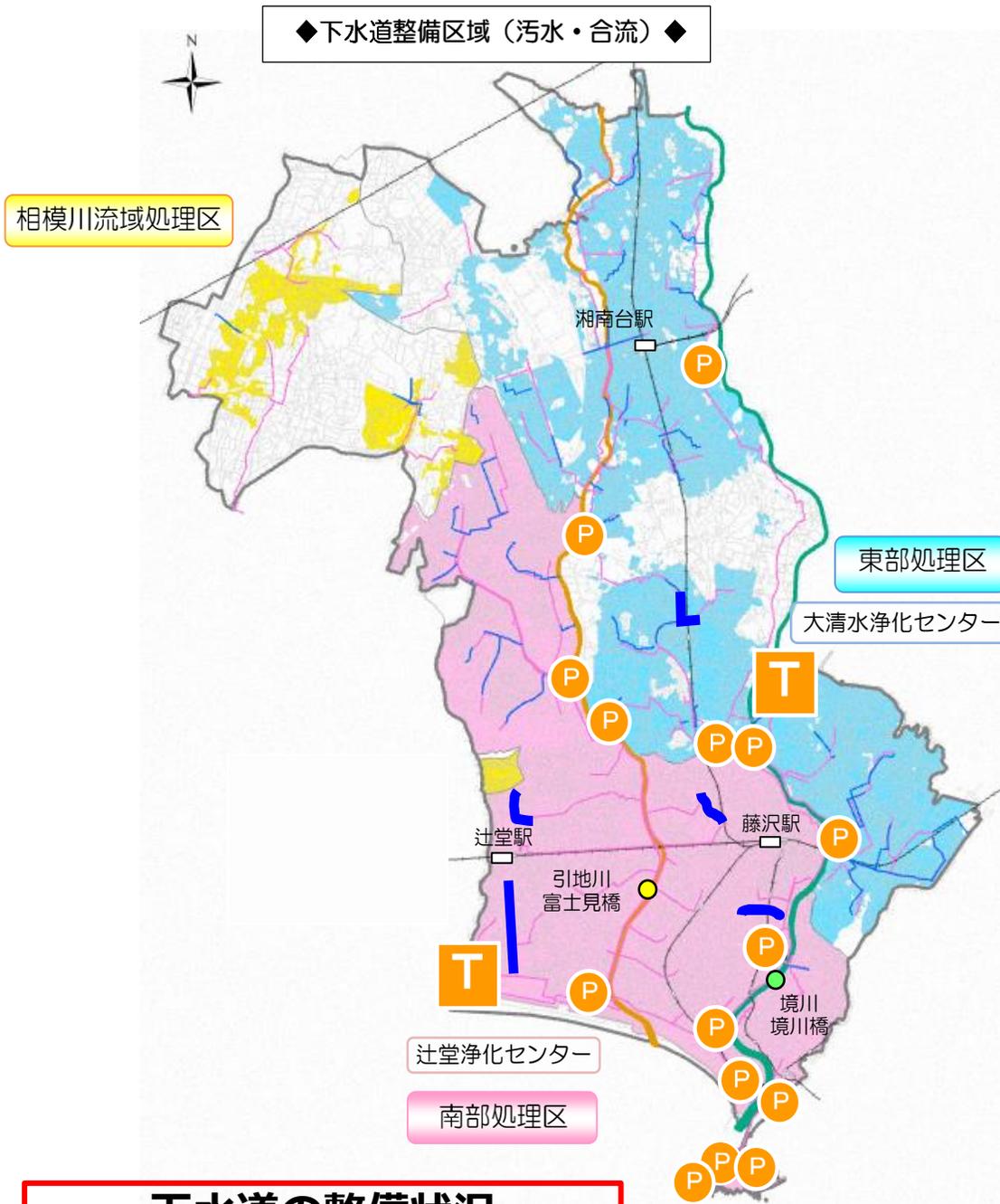
下水道の整備状況

着手年度	1951 (昭和26) 年
処理区域面積	汚水処理：約4,784ha (行政面積6,956haの約69%) 雨水排水：約3,420ha (行政面積6,956haの約49%)
処理区域内人口	425,070人 (行政人口442,892人の約96%)
管きよ延長	汚水・合流 約1,180km 雨水 約 440km
貯留管	雨水・合流 5か所
浄化センター※	単独公共下水道 2か所 (市が所有)
処理能力	217,500m ³ /日 単独公共下水道処理場の合計値
ポンプ場	15箇所 (汚水・合流、雨水)

※相模川流域処理区の汚水は、県が所有する水再生センターで処理しています。

凡例

	主要な管きよ (汚水・合流)
	主要な管きよ (雨水)
	貯留管
	浄化センター
	ポンプ場

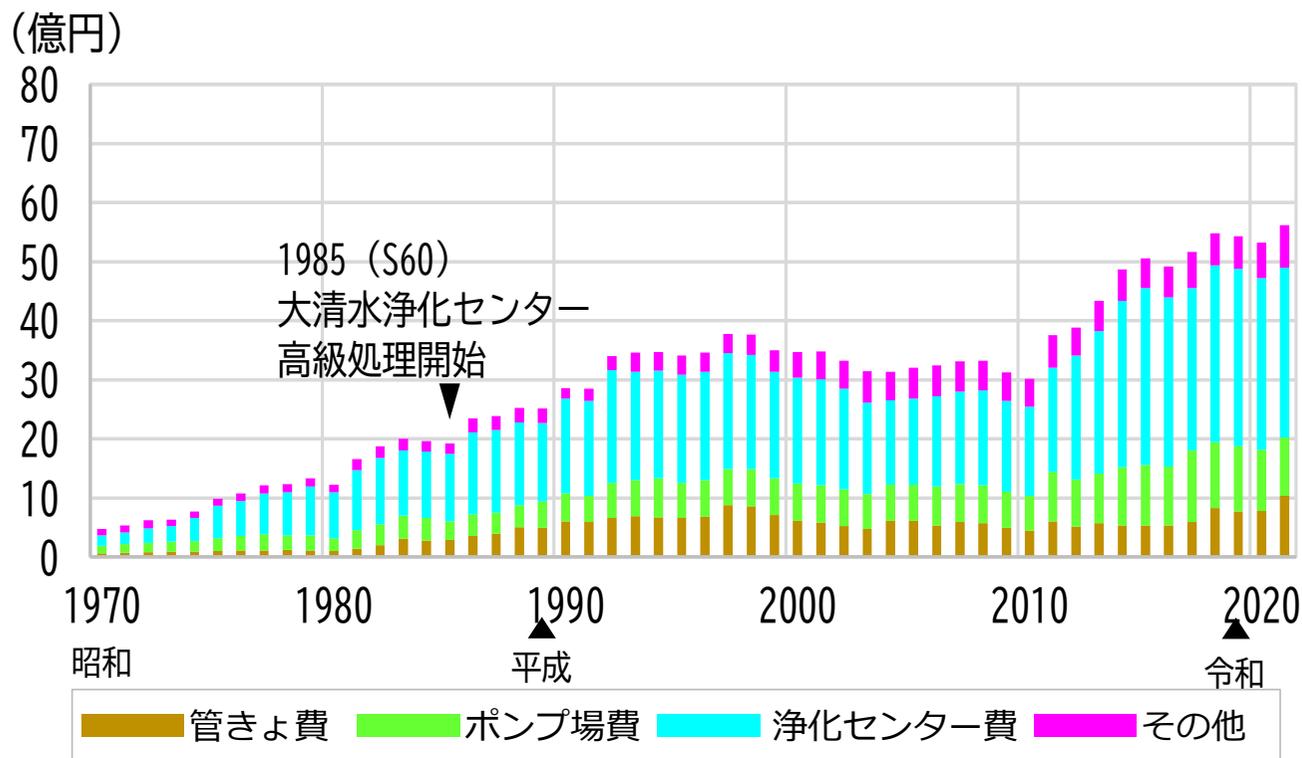


**下水道の整備状況
2021(令和3)年度末現在**

(2) 支出の推移 維持管理費

下水道の普及拡大に伴い、
汚水処理の維持管理費は増
加してきました。

今後は急速に進む老朽化
施設の点検・調査等に要す
る維持管理費が年々増加す
る見込みです。

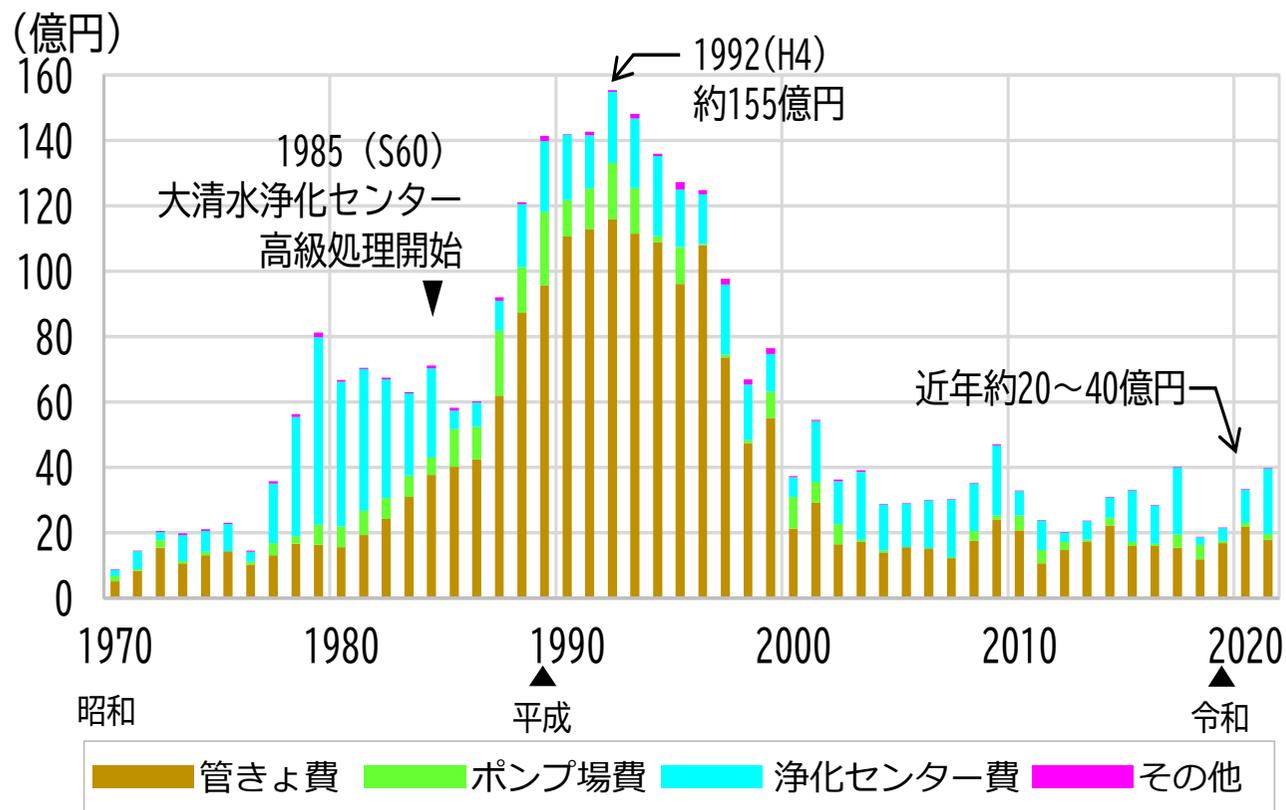


維持管理費の推移

(2) 支出の推移 建設改良費

1990年代は下水道の普及拡大のため大規模な建設投資を実施してきました。

近年の建設投資は年間20～40億円となっていますが、今後は過去に整備した施設が更新時期を迎えるため、再び増加に転ずる見込みです。



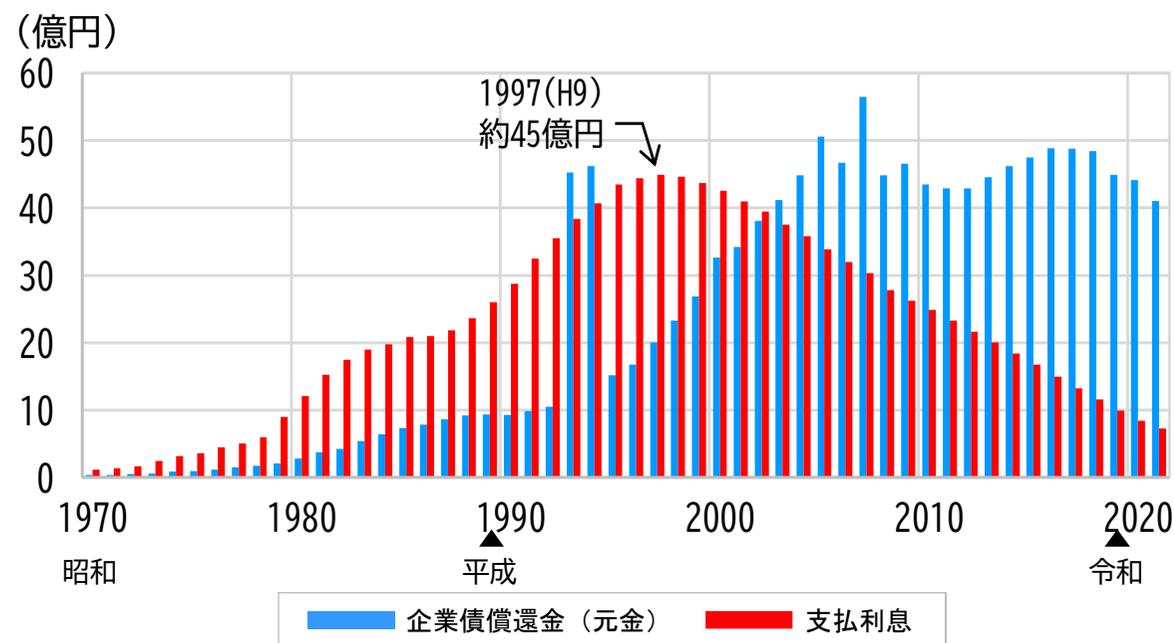
建設改良費の推移

(2) 支出の推移

企業債償還金及び支払利息

企業債償還金は現在減少傾向にあり、支払利息も1997(平成9)年をピークに、現在では大幅に減少しています。

今後は改築等による建設改良費の増加に伴う借入の増加により、企業債償還金も増加に転じる見込みです。



企業債償還金 (元金) 及び支払利息の推移

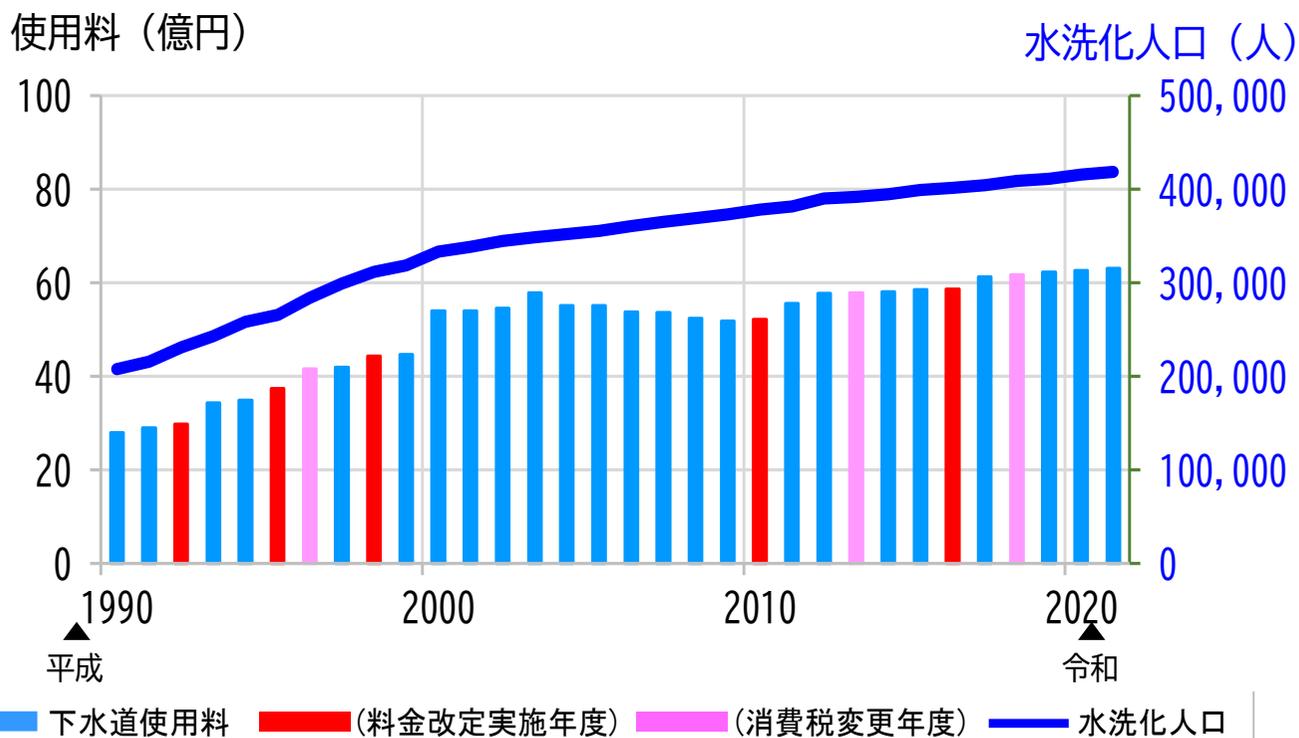
課題のキーワードは「老朽化」だね



(3) 収入の推移

下水道使用料① (水洗化人口)

下水道使用料収入は、水洗化人口*の普及拡大に比例し、2000年頃までは大きく伸び増加傾向にありましたが、近年は横ばい状態にあります。



下水道使用料と水洗化人口の推移



* 水洗化人口：汚水処理施設に接続し、汚水処理を行っている人口のこと

(3) 収入の推移

下水道使用料② (有収水量)

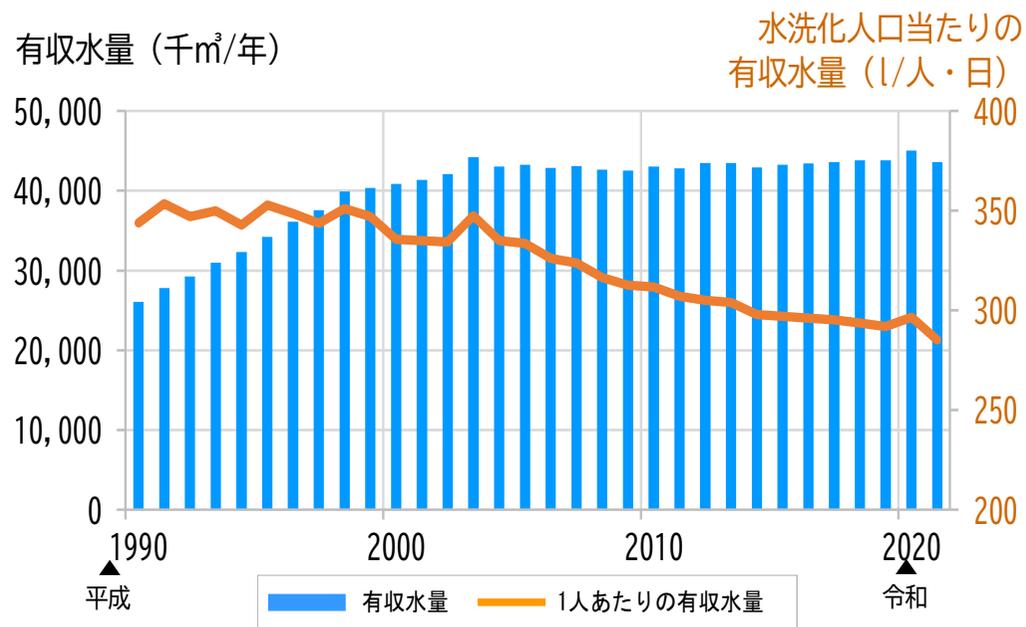
有収水量*は、水洗化人口の頭打ちや節水意識の高まりにより、近年では横ばいとなっています。

今後は、工場など多量使用者でも規模縮小や節水等による排水量の減少が想定され、下水道使用料収入も減少に転じると想定されます。



収入が少ないと老朽化した管きよを修繕できなくなっちゃう！！

*有収水量…下水道使用料の徴収対象となる水量



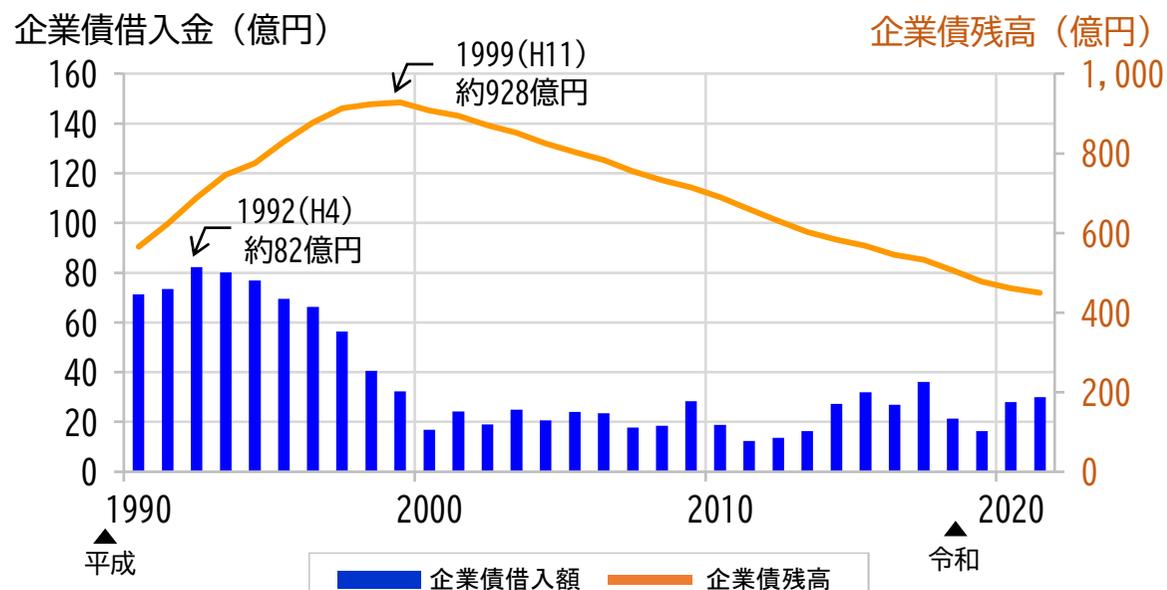
有収水量と1人あたり有収水量の推移

(3) 収入の推移

企業債借入額及び企業債残高

企業債借入金は建設改良投資が落ち着いたことから現在は横ばい状態にあり、企業債残高も1999（平成11）年をピークに減少しています。

今後は老朽化対策に伴う建設改良投資の増加により、借入額及び残高も再び増加に転じると想定されます。



企業債借入金及び企業債残高の推移

(3) 収入の推移

国庫補助金

国庫補助金は1990年代では、40億円前後交付されていましたが、近年では、建設改良費に比例し減少傾向にあります。

今後は、污水管きよの単純改築*への支援が廃止されるなど、国の助成制度も変化しており、国庫補助対象事業の割合は減少していくと想定されます。

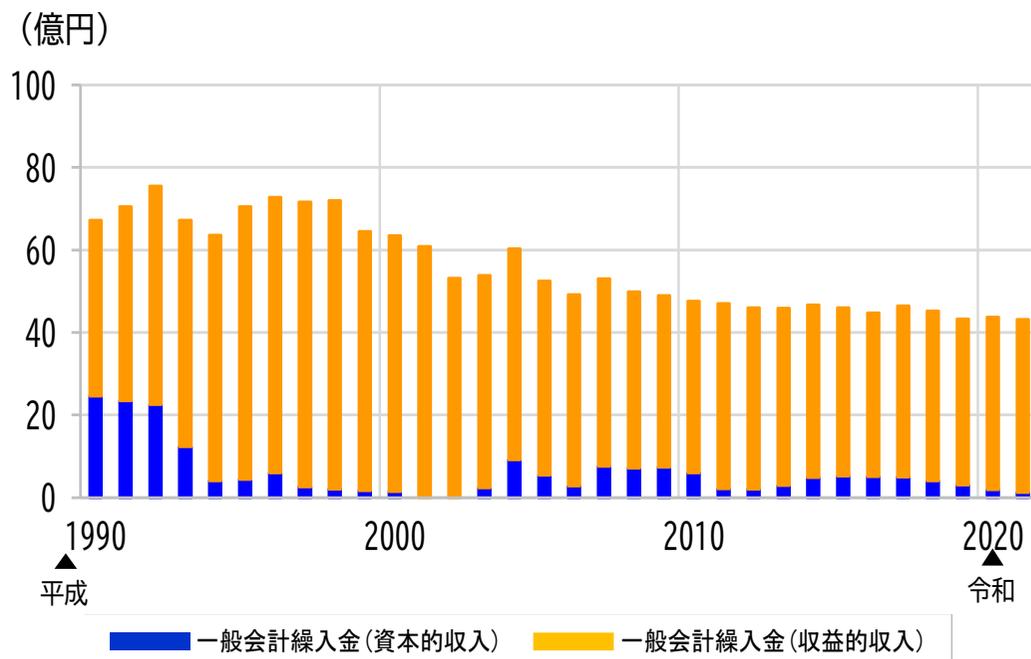


* 単純改築：標準耐用年数を経過してから改築を行うこと

(3) 収入の推移 一般会計繰入金

一般会計繰入金は、雨水処理の経費等の費用に充てられます。

近年は45億円前後で推移していますが、老朽化対策や浸水対策など新たな課題への対応に伴い、今後は一般会計繰入額の増加が必要とされます。



一般会計繰入金の推移



雨水公費・汚水私費の原則！

(4) 収支上の課題

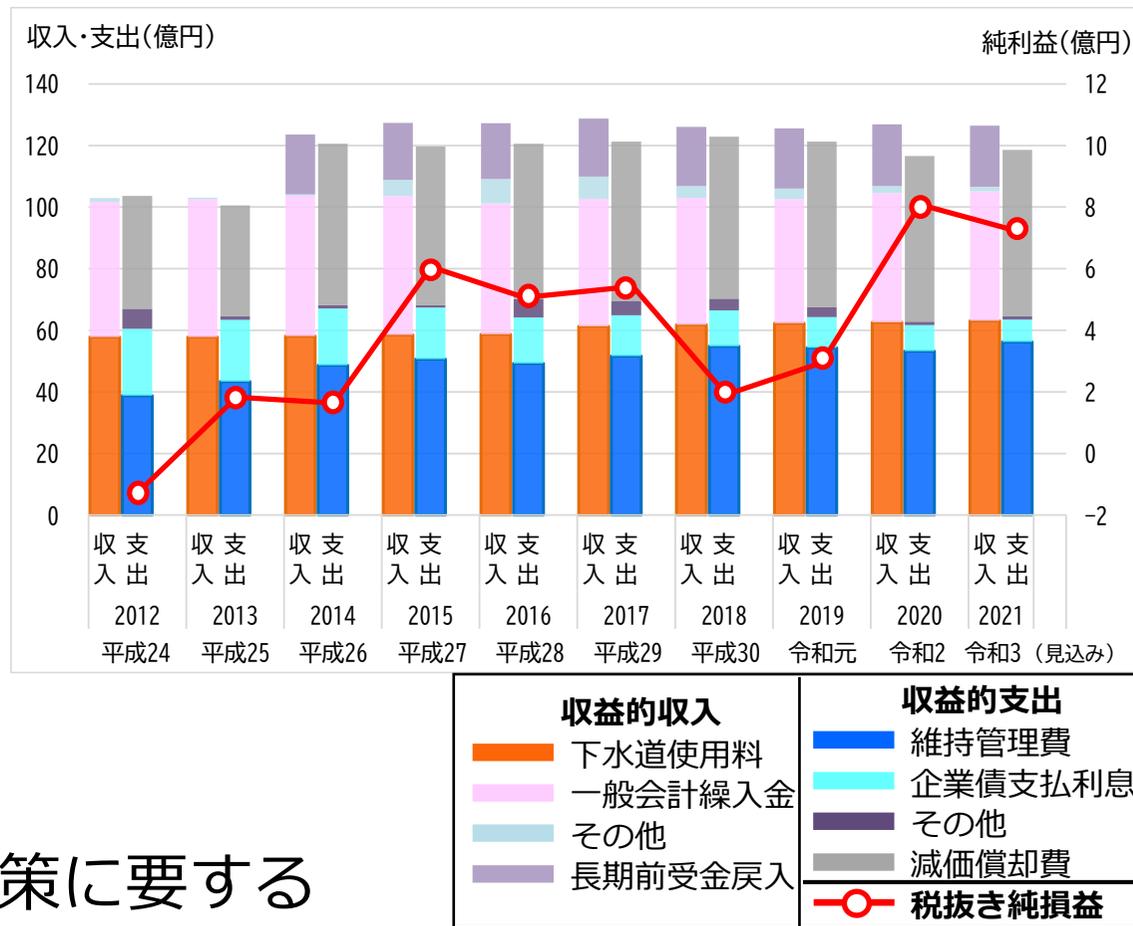
収益的収支

過去10年間の収益的収支の推移

収益的支出については、維持管理費は増加するものの、支払利息が減少しているため、支出全体の伸びは抑えられてきました。

そのため、主な収入源の下水道使用料が伸び悩む中においても、収支のバランスを保つことができていました。

今後は、急速に進む老朽化への対策に要する維持管理費の増加と下水道使用料の減少が見込まれ、経営状況の悪化が懸念されることから、適正な使用料水準について適宜判断する必要があります。



(4) 収支上の課題 資本的収支

資本的収支において支出が収入を上回り、収支不足額が生じた場合、収益的収支の純利益などにより補てんしています。

今後は、老朽化等に対応するため建設改良投資の増加が見込まれます。そのため、収支バランスをより一層考慮した投資計画の立案が重要です。

過去10年間の資本的収支の推移

